

自然の人間心理への作用

生物資源科学部 生物環境科学科

1年 堀田 ちづる

指導教員 生物資源科学部生物環境科学科

教授 谷口 吉光

1. 研究の背景と目的

自然が人間の心理状態に作用すると昔から言われている。例えば、インターネットで調べると、ロシアなどの雪国では日照時間が極端に短いことで起こる抑うつ症状が起りやすくなる「雪国うつ」が見られるという⁽¹⁾。そこで私は、自然の人間心理に対する作用について調べたいと思い、本研究を始めることにした。本研究の目的は、人工的な自然は元来の自然と同様の心理作用を人間に与えることができるか検証することである。また、研究結果を生かして、都市生活を送る人や精神疾患を患っている方々に自然の心理作用を効率的に提供する方法を考えたい。

2. 研究の方法

研究目的を達成するために、人工的な自然と元来の自然を被験者に見てもらい、どのように感じたかを質問して、その結果を比較することにした。具体的には、ガラス瓶に入れた深紅のバラの造花（人工の自然）と生花（元来の自然）を被験者に見てもらい、その場でアンケートに回答してもらうことにした。バラを選んだ理由は一年中花屋で入手できるからである。造花のバラはインターネットで購入し、生花は秋田市内の花屋で購入した。

実験に使用した道具は以下の通りである。

- ・バラの造花 3本
- ・バラの生花 3本
- ・ガラス製の花瓶 2個
- ・水道水 適量
- ・A4の白紙 1枚
- ・ハサミ 1本
- ・マーカー（黒） 1本
- ・アンケート用紙

実験は2022年1月24日に行った。被験者は本学の3～4年生と大学院生26名であった。

実験方法は、下準備としてA4の白紙を半分に切り、2枚にした。1枚の紙には「A」、もう一方には「B」とマーカーで書いた。3本の造花の茎と葉を切って、生花に長さ一番下の葉の位置を合わせた。1個の花瓶に生花3本、もう一つには造花3本を入れた。2つの花瓶の水面の高さが同じになるようにそれぞれ水道水を入れた（図1）



図1 造花と生花

当日の実験は次の3つの手順に従って行った(図2)。

- 1 A(生花)、B(造花)、AとBをそれぞれ書いた紙を下のように置いた。
 - 2 被験者二人一組で下図のように座ってもらい、アンケートに答えてもらう。
 - 3 アンケート回収後、「AとB、どちらが造花だと思いますか。」と口頭質問をし、その回答をアンケートの余白に記した。
- * 2, 3において、被験者にできるだけ顔を花に近づけてみることをお願いした。

アンケート用紙は図3の通りである。

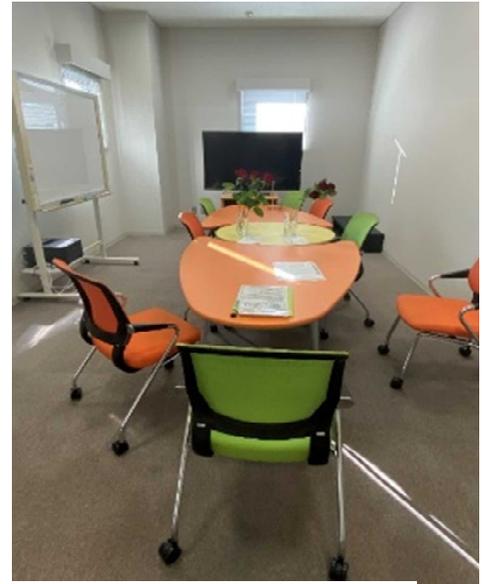


図2 実験場所のセッティング

学生自主研究「自然の人間心理に対する作用」(「しんりん」グループ) ㊦

アンケート用紙(案) ㊦

㊦

問1 どちらの花がきれいだと思いますか? ㊦

1. Aの方がきれい ㊦
2. どちらかといえば、Aの方がきれい ㊦
3. どちらもでない ㊦
4. どちらかといえば、Bの方がきれい ㊦
5. Bの方がきれい ㊦

㊦

問1-1 そう思うのは、なぜですか? ㊦

㊦

問2 どちらの花が好きですか? ㊦

1. Aの方が好き ㊦
2. どちらかといえば、Aの方が好き ㊦
3. どちらもでない ㊦
4. どちらかといえば、Bの方が好き ㊦
5. Bの方が好き ㊦

㊦

問2-1 そう思うのは、なぜですか? ㊦

㊦

問3 買うとしたら、どちらを選びますか? ㊦

1. Aを買う ㊦
2. どちらかといえば、Aを買う ㊦
3. どちらもでない ㊦
4. どちらかといえば、Bを買う ㊦
5. Bを買う ㊦

㊦

問3-1 そう思うのは、なぜですか? ㊦

㊦

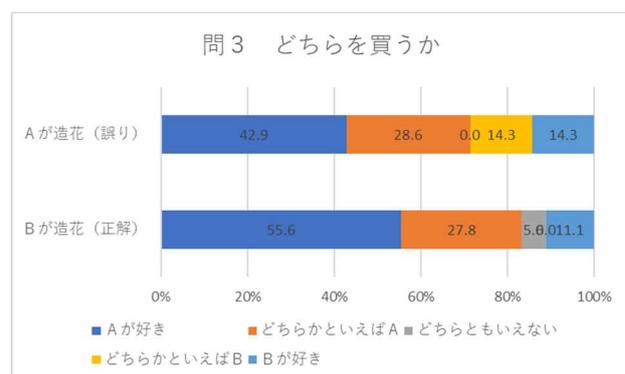
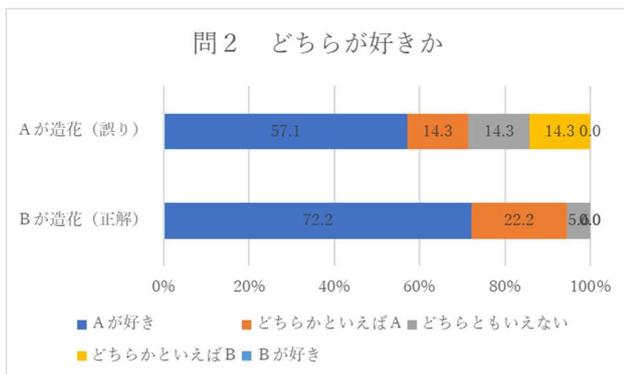
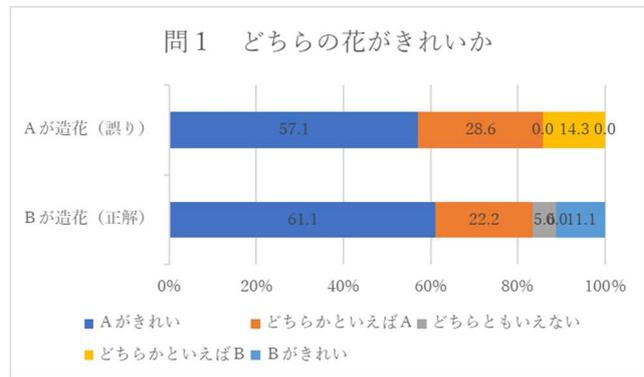
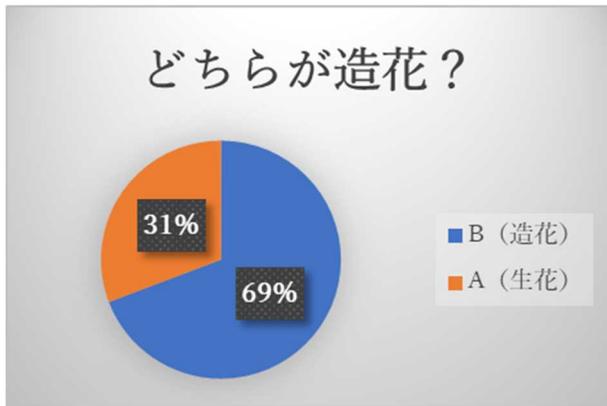
問4 それぞれの雰囲気を書き込んで下さい。 ㊦

㊦

ご協力ありがとうございました。 ㊦

図3 アンケート用紙

3. 実験結果



問1—1 どちらの花がきれいだと思いますか。

問1では、A (生花) がきれいだと回答した人がほとんどだった。問5にてA (生花)、B (造花) を造花だと答えた人にはそれぞれ次のような傾向があった。

B (正解) の人はきれいだと判断する基準において色に着目する人が最も多かった。その次に、「明るい」、「鮮やか」などのイメージに着目する人が多かった。

A (誤り) の人は「いきいき」などのイメージに着目した人が多かったが、「形がまとまっている」、「花が開いている」など花の特徴に着目した人も多かった。このことから、生花を見分けられる人 (以下 b) は色とイメージ、生花を見分けられない人 (以下 a) はイメージと特徴に着目してきれいかどうかを判断する傾向があると考えられる。

問2—1 どちらの花が好きですか。

問2も問1と同様にA (生花) を好む人が多かった。B (正解) の人もA (誤り) の人も「きれい」、「元気」などのイメージに着目する人が最も多かった。そのほかに、B (正解) の人は色に着目した人が多かった。A の人は、わずかであるが「好き」、「濃い」といった主観的な認識で好き嫌いを判断する人がいた。このことから、bもaもイメージから花の好き嫌いを決める傾向にあるが、キーワードを見るとbは色、aは「好き」などの主観的な認識を理由にあげるといふ違いが見られた。

問3—1 買うとしたら、どちらを選びますか。

問3も問1、2と同様に生花を買いたいと答えた人が多かった。全体的にA (誤り) の人もB (正解)

の人も「いきいき」、「元気」などのイメージと「枯れない」、「気分」といった主観的感情や利便性を判断基準にした人が多かった。B（正解）の人は「元気」、「きれい」、「好み」を回答した人が多く、A（誤り）は「色」、「好み」を理由にあげた人が最も多かった。このことから、買うときにbもaもイメージや主観的感情や利便性を判断基準に買う花を決める人が多いと考えられる。

問4 それぞれの雰囲気を書きなさい。

問4に関しては、A（誤り）、B（正解）の人ともにA（生花）に対しては、「明るい」、「いきいき」、「みずみずしい」といったポジティブな回答が多かった。一方、B（造花）に対しては「弱弱しい」、「枯れそう」といったネガティブな回答が最も多かった。しかし、B（造花）に対して、少数ながらもA（誤り）、B（正解）の人ともに「きれい」、「深みがある」といったポジティブな回答も見られた。このことから、bもaも同じような雰囲気を花に感じる傾向にあると考えられる。一貫してわかることは、大部分の人は、生花にポジティブな雰囲気、造花にネガティブな雰囲気を感じる傾向にあることだ。

4. 考察

今回の実験から分かったことをまとめると、次のことが明らかになった。

被験者全体の7割が造花を見分けることができたが、3割程度の方は生花を造花だと回答した。このことから、およそ30cm以上遠くから見ると生花と造花を見分けられない人が一定数出てくると考えられる。

また、今回の実験では、問1～問3において、A（誤り）、B（正解）の人ともにA（生花）を選ぶ人が多かった。また、雰囲気においても生花に対してポジティブな雰囲気があると答えた人がA（誤り）、B（正解）ともに多かった。したがって、人に対する自然心理効果は生花のほうが造花よりも大きいと考えられる。また、場合によっては造花が負の心理効果を人に与える危険性が示唆される。したがって、都市生活や精神疾患の治療において、生花を飾るほうが正の心理効果を与える可能性が高い。

最後に反省点として、この実験の到達目標は自然の心理作用を調べ、その結果をもとに都市生活を送っている方々と精神病棟の患者に心理効果を効果的に提供するための案を提案することだったが、実験が思うように進行せず、到達目標を達成できなかった。

注

(1) 陽を浴びないと気分が落ち込む!? “雪国うつ”って何?

URL : <https://weathernews.jp/s/topics/201802/200155/>